



語字故原田 親

No. 591

2009/12/5

日中友好新聞

発行所
日本中国友好協会
〒111-0045 東京都千代田区
西船場1-1-1 東京大学ビル3階

日中友好協会
岡山支部
〒703-8256
岡山市東区3-8-30 511
TEL: 0861-272-3010
郵便番号11所
01256-0-3835

日中友好協会
倉敷支部
〒713-8511
倉敷市連島中央1-8-1
(宮地方)
TEL: FAX 0860-416-2711

日中友好協会岡山支部ホームページ
<http://rizhong.web.infoseek.co.jp>
メールアドレス
rizhong86@hotmail.co.jp



中国帰国者の日本語教室

開講5周年のつどい開く

11月21日、中国帰国者の日本語教室開講5周年のつどいが、岡山市の高島公民館で開かれ、岡山、総社、倉敷の各市から受講生、講師、日中友好協会岡山支部理事、新聞記者など45人が参加しました。

つどいは、中国帰国者の日本語教室・岡山県連絡協議会代表の岩間一雄さんのあいさつで始まり、中国人留学生の蔡さんの夜来香など3曲と西岡さん(東洋医学療術師)の二胡演奏を聞き、参加者全員で中国の音楽を堪能しました。

今回は5周年記念と節目の年なので、これまで熱心に教室に通った、孤児「訴訟岡山原告団長の高杉久治さん、帰国者の篠原明男さん、篠原玲子さんに表彰状を送りました。

各教室ごとに参加者の自己紹介に移り、長岡教室から練習を重ねてきた お月さま、かえるの歌を日本語で上手に合唱し、会場から大きな拍手が送られました。



ハーモニカ演奏の益田さんと通訳の馬さん

総社教室は受講者が、誕生寺、美咲町、神庭の滝への日帰りバス旅行で体験した作文(お坊さんのお経をはじめて聞いた。卵かけごはんを食べたことなど)を読み上げ笑いを誘い会場を沸かせました。

会は毎年恒例となつていて益田さんのハーモニカ演奏、ゲームを進みましました。今年はビンゴゲームを和気あいあいと楽しみました。

最後に、日本語教室岡山の会代表の井上進夫さんがたいへん有意義な会になり、皆さんとともに喜びあいたいと思います。そして、日本語教室は、今後も 楽しく学び、交流できる場として、運営していきたい」と閉会のあいさつがありました。

なお、今回は7月から高島公民館で講座がはじまったこともあり、高島公民館での開催となりました。館の職員の皆さんには、会場の準備、後片付とたいへんお世話になりました。ありがとうございました。ごさいました。

中国帰国者の日本語教室
岡山の会事務局 小林軍治



長岡教室の講師と受講者



総社教室の講師と受講者

北京へ(10)

坪井あき子

バスの中ではいつも、あれやこれや、日本人からお金をひき出すはたらきかけが準備されていた。ハンコの丸い石を渡して、掘つてほしい人は注文書といっしょに渡すと帰国までに出来上がる。料金は千円。

お菓子の注文とりもあった。北京食糧源商貿中心」という電話番号だけ書いてあつて住所のないパンフレットが配られた。中心(センター)だから、会社

ではないのだろう。13品が、絵入りで、すべて日本語で紹介してあつた。試食品も配られた。お申込書の欄を見ると、すべて「6箱」がセットで、これにオマケを一箱つけてくれるという。パンダクッキーが12個入、6箱で360円。北京キャンデー20個入、6箱で320円。という調子である。320円といえど4千800円だ。7箱とすれば、一箱680円余。北京酥(ペキン酥)20個が600円以上! 王府井で同じものを買ったが量り売りで20円ほど買うとずつしりと重かった。

九条の会 中国ブロック交流会in岡山 2009

記念講演 新しい政権と日本国憲法をめぐる情勢



プログラム
11:00 ~ 12:00 全体会
12:00 ~ 13:00 休憩
13:00 ~ 14:30 記念講演
14:40 ~ 16:40 分教会

夏の衆議院選挙で自民・公明は歴史的な大敗。民主党を中心とする新しい政権ができました。明文改憲は後退し、憲法をめぐる状況にも大きな変化が訪れています。改憲運動は後退しませんが、目に見えやすい形から見えにくい状況へと移りつつあるようです。ヘリ空母など自衛隊の装備を海外展開型に充実・発展させ、アメリカのする戦争にいつでも協力できるようにするなど、改憲は止まらざるを得ない。新しい情勢をふまえ、九条の会の運動をどのように発展させるのか、ともに学び、考え、話し合いましょう。

講師 渡辺治さん (一橋大学教授・九条の会事務局員)
12月12日(土) 11時~16時40分
会場 岡山市民会館 4階大会議室
参加費 500円



岡山駅から岡山駅西口で「岡山行き」に乗り、城下で下車し、徒歩9分。

各県の九条の会(ネットワーク・担当事務局)に事前の申込みが必要です。

主催 九条の会 東京都千代田区西神田2-5-7 神田中央ビル303
岡山県九条の会/鳥取県九条の会/山口県九条の会ネットワーク
広島県九条の会ネットワーク
連絡先 石口優一法律事務所 082-222-0072 広島市中区八丁4-24-7F

講演会 坪田譲治文学における「戦争」 「支那」の子どもたちをどう描いたか

岡山出身の児童文学者・坪田譲治は、大人も子どもも共有できる世界を求め続け、豊かな生き方を追求してやみませんでした。だからその戦時期の作品は、同時代を鋭く見抜き、後世の批判に耐えうるものであったかが問われます。その検証は、現代という時代に生きる私たちへの警鐘となるでしょう。とんでもなく、お気軽においでください。

坪田譲治 (1889-1962)
小説家、童話作家。
岡山市生まれ。早稲田大学英文科卒。「正太の馬」で文壇デビュー。「お化けの世界」「風の子供」「千子の四季」など、いずれも善太・三平を主人公にして郷土岡山を舞台とした家庭小説で親しまれてきた。
岡山名誉市民。岡山市では1984年に全国規模の「坪田譲治文学賞」を設けた。

とき 12月6日(日) 午後2時から4時50分
ところ 岡西公民館・研修室
岡山市北区下伊福西町1-48 (086)253-7581
講師 劉 迎さん

日本児童文学研究者(坪田譲治文学専攻)、中国江蘇省徐州市に生まれる。岡山大学大学院博士後期課程修了。文学博士。現在、岡山大学・中国語学専攻非常勤講師。中国徐州師範大学特任教授。
著書・訳書『日本児童文学史』『新東南アジア』『坪田譲治童話』など。
『岡山の記憶』に『坪田譲治文学における「戦争」』を連載中。

主催 岡山・十五年戦争資料センター
連絡先 TEL:086-273-4068 メールアドレス YHY11646@nifty.com



第80回日中文化講座

「いまの中国をどう見るかー映画・漫画を通してー」

石子順氏 講演 ⑧

第80回文化講座(09・5・16)での石子順さんのお話を掲載しています。

作詞家の田漢というのは、日本へ留学して日本の芝居(山本有三など)を持って帰って、中国で芝居にして、映画にしていってという長い歴史があります。

言ってみると日本という国は日中戦争が始まるまで、中国の人達にとっては留学する場所であり、いろんなものを吸収する場所でもあった。

つまり中華民国を作った孫文という革命家も、何回も中国国内で戦争に負けるたびに日本に亡命してきたといういきさつもあります。

そしてもう一つ今日皆様方に渡している漫画なんですが、その中に豊子愷という漫画家もいます。豊子愷、この人は日本に半年だけ自費留学しているんです。当時のお金で千円ぐらいしか集めてね、それで日本に来て、夜は浅草のオペラを観にいつて、昼間は英語の勉強と美術館を歩いて、時間があると神田神保町の古本屋めぐりをして、気に入ったのが竹久夢二、露谷虹児といった当時の叙情画です。そのころはコマ画という漫画のスタイルがあった、そういうスタイルが大変気に入って、彼は半年しか日本に

勉強でね、天才だなと思います。もちろん中国に戻ってから随分日本語を研鑽したようです。ただしこの人の場合は、1926年に一杯漫画を描いたんだけど、1937年に日中戦争が始まると、彼の住んでいるのは上海の近くだったために、日本軍の襲撃や爆撃、侵入によって家が焼かれてしまふ。彼の学校も、描いた絵とか収集したもの、日本から帰って帰った貴重な資料とかも全部燃えてしまふ。結局、彼は転々とあちこち疎開して、家族が多かったために着の身着のまま逃げ廻って、描いたものも全部失ってしまった。戦争が終ってから思い出して、最初の頃の絵を書き直すんです。最初の頃のタッチと違っているんではないかと思うんですが、娘達に言わせるとほとんど同じタッチだと言うんですが。

この人もすごい人です。この人は、文化大革命の時には酷い目にあって、1975年、文化大革命の最中に老人なのに重労働させられて、つるし上げされて、酷い目にあいながら、結局最後は病死してしまふ。

色をどう表現すればいいのか、辞書を引いて、出来るだけの言葉を羅列してみました。写真がカラーでないのが残念です。

午後三時頃から私、ミカエル、心は、広大なビーチで泳ぎ、娘と妻は、買い物に出かけました。このビーチは、すぐ深くなっていたが、岩肌が海上に浮かんている場所があり、日本の水泳区域内の休憩場所と同じで、そこで一息入れ、また泳ぐことができ、遊泳を楽しみました。

小林軍治の

フランス滞在記7

カンヌ

八月五日は、コート・ダジュールの紺碧海岸と呼ばれる美しい都市の一つで、五月に世界的な映画祭が催される、カンヌを訪れました。

到着後、海岸通りのクロワゼット大通りの公園で昼食(おにぎり)を取り、観光電車でインターコンチネンタル・カールトンホテルなどが並ぶホテル街を通り、昔ながらの風情が残っている旧市街地を一周しました。途中の小高い丘で休憩をとり、海辺や美しい家並が高台まで続くのが一望できる場所

で、写真を撮りました。紺碧の空と海の間で、陽光に照らされ、山の本々の緑に囲まれて、美しく、明るく映える



カンヌの街と海岸

るレンガ色の家々」私は、詩人ではない。この景

イレズミ・トップレス・読書

海辺で、おや日本と違うなと思うことが、三つありました。

一つは、男女年令を問わず、腕や背中にイレズミをしている人を見かけたことです。

日本では、イレズミ(入れ墨・刺青)をしている人は、ヤクザ者との見方が一般的であり、海水浴場などでは受け入れない場合が多い。しかし、フランスでは、何も問題もない様子です。娘に聞くと、日本と違ってファッションの一種で、人によつては、肌を出す夏だけする「また形も小さく愛とか心といった字や花、小動物が多く、刺繍のようなもの」と話してくれました。

二つ目は、胸にブラジャーを着けていない女性(いわゆるトップレス)を見かけました。はじめ見た時にびっくりして、あまりジロジロ見ていると変に思われてはと目をそらすと、そら

した方にもいて、あらためて辺りを見回すとかなりの人がトップレス状態であることに気付きました。とくに砂浜でうつぶせになって寝そべて日光浴をしている人々に多く見られました。

観光案内によると、次のように書かれています。

地中海沿岸の港町サン・トロペがトップレス発祥の地である。一九七〇年にフランスで、初のトップレス女性が現れた当時は、スキヤンダラスだったが、今ではごく自然な南フランスの海岸風景の一部となっている。

三つ目は、泳ぐことより海辺で寝そべて日光浴をしたり、ビーチパラソルの下で雑誌や新聞を読んだり、音楽を聞いたりして、のんびりと一日を過ごしている人を多く見かけました。これこそ、いわゆるフランスのバカンスの過ごし方だと思いました。

これらの三つのことは、南フランスだけでなく、北西部のブルターニュ地方の大西洋岸で泳いだときも同じような状況が見られました。

つづく



次回の新聞放送作業は12月11日(金)午後1時半、民主会館2階で行います。前回お手伝いくださった方です。

吹和 林内 和 貝小 竹内 垣 竹三